

今月の農家さん

自ら経営する楽しさ

守山市今浜町

寺田 彦次郎さん(51才)



今浜町にある5棟の温室で電照菊を育て、年間35万本もの出荷をしている寺田さん。「自分で経営をしてみたい」という思いから就農し、今年で22年目になるそうです。

綺麗に咲いて、長持ちする菊を育てるため、虫よけネットをかけたり、消毒をしたり、天気予報を見ながら電照や温度の管理をしたりと、1年中大忙しです。

寺田さんは「菊は思い通りの時期に咲かない事もありますし、自ら喋らないので、どのよう

に世話をすればいいか色々考えさせられます。でも、無事に花が咲けば嬉しくなりますし、菊を買った人に『寺田さんの菊は長持ちするね』と言って貰えると喜びもひとしおです」と笑顔で話します。

最後に寺田さんは、新しく農業を始める方に「仕事として農業を営むには、覚悟が必要です。でも、自分で販路を作ったり、経営したりするのは楽しいですよ」とエールを送りました。

営農情報

1. 除草剤の仕組みと水管理

除草剤は、溶けだした有効成分が数日かけて土壌表面に薄い「処理層」を作り、この層に雑草の芽などが触れることで除草効果を発揮します。

処理層は少しずつ分解されるため、いずれは除草効果がなくなりますが、できるだけ長持ちさせるため、次の点に注意しましょう。

○ 除草剤を散布する時は、苗を水没させない範囲で水深を深く保つ(5cm以上が目安)

○ 田面が露出しないように水をしっかりと張り、水口と水尻を閉じる

○ 除草剤散布後1週間は、原則として田面が露出しても入水・落水はしない

○ 処理層を壊さないよう、圃場には入らない

2. 防除時期の注意について

雑草もイネと同じ様に、葉の枚数で成長度合いを示します。これを「葉齢」といいます。

除草剤には「殺草葉齢限界」といって、除草剤ごとに防除できる

雑草の最高葉齢が決められており、雑草が大きく育ちすぎていると、十分な除草効果が得られません。

例えば、初中期一発除草剤「バッチリ」や「アップパレZ」の場合、「バッチリ」はノビエ2.5葉期まで、「アップパレZ」はノビエ3葉期まで除草効果が得られますが、これを超えると十分に効果を発揮できません。

左の図を参考に、雑草の葉齢を確認し、適期防除を行きましょう。また、同じ名前の除草剤でも「フロアブル」「粒剤」「ジャンボ剤」など薬剤の形状によって使用適期が異なる場合があります。ご使用の際は、必ずラベルをお読みください。

葉齢の数え方(ノビエの場合)

葉齢は、葉が伸びきったときの大きさを10等分して診断する。→この場合は、伸びきったときの半分の大きさと予測して、2.5葉期となる。

